

## 会 議 録

会 議 名	令和4年度第3回3市ごみ減量推進市民会議		
事 務 局 (担 当 課)	小金井市ごみ対策課、日野市ごみゼロ推進課、 国分寺市ごみ減量推進課		
開 催 日 時	令和5年2月17日（金）午前10時00分～12時00分		
開 催 場 所	日野市クリーンセンタープラスチック類資源化施設2階 多目的室		
出 席 者	委 員	<出席者：14名> （学識）宮脇委員長 （日 野 市委員）加納委員・小野寺委員・高松委員 （国分寺市委員）八ツ藤委員・石垣委員・佐藤委員 （小金井市委員）林委員・齋藤委員・續木委員 （行政）高尾委員（日）・栗原委員（国）・今井委員（小） 西村委員（浅）	
	事 務 局	日 野 市：高橋課長補佐・山口主任 国分寺市：永沢係長 小金井市：高田係長・府川係長	
欠 席 者	伊藤委員（日野市委員）森田委員（国分寺市委員） 橋本委員（小金井市）		
傍聴者の可否	可	傍 聴 者 数	1人
会 議 次 第	1 小委員会からの中間報告 (1) 情報発信・環境学習グループ (2) 減量グループ 2 その他 3 閉会		
会 議 結 果	別紙審議経過のとおり		
提 出 資 料	別添のとおり		
そ の 他			

宮脇委員長	<p>それでは、これより3市ごみ減量推進市民会議を進めてまいりたいと思います。</p> <p>会議を始める前に、傍聴の有無について事務局より報告をお願いいたします。</p>
事務局	<p>本日は、傍聴を希望の方がおられますので、よろしければこの後お入りになっていただきたいと思います。よろしくお願いいたします。</p>
宮脇委員長	<p>この会議は、原則公開となっておりますので、傍聴者の方にお入りいただきたいと思います。よろしくお願いいたします。</p> <p>次第の1番ですけれども、小委員会からの中間報告という内容となっております。グループ別ということですので、まずは情報発信・環境学習グループの方から報告をお願いいたします。</p>
八ツ藤委員(国)	<p>まず、「浅川清流環境組合可燃ごみ処理施設小学生見学用小冊子の作成案について(報告)」をご覧ください。11月の全体会議で中間報告しておりますので、これから説明する内容も重複する部分もありますがご理解願います。</p> <p>最初に1. 作成の目的です。(1)について、浅川清流環境組合可燃ごみ施設の見学について記載しております。直近2年の見学状況として、国分寺市は、小学校10校全校4年生が見学しております。日野市及び小金井市は毎年2、3校ずつ見学しており、コロナ禍という事情はありますが、各市ばらつきがあるということは認識いただきたいと思います。(2)(3)は、浅川清流環境組合作成の見学児童用のパンフレットについてです。こちらは可燃ごみの処理工程図が中心であり、3市の共同処理の目的とか、焼却後の灰の処理とか、発電の状況とか、公害対策等、幅広い説明がなく、補助教材としては不十分かと思われますので、今後の児童数の増加予想を踏まえ、補助教材を作成することとしております。</p> <p>(3)今後、見学児童数の増加も予想されますので、可燃ごみ処理施設の説明のほかに、共同処理の目的とか3市のごみ・資源物の流れ、3市共通のごみ問題、環境問題等も織り込んだ、学校に持ち帰って補助教材としても利用できる小冊子を作ったらどうかということで、今年5月頃からコロナの分類も変わるようですし、恐らく社会生活は平常に戻りつつあるかなということもありますので、見学の校数も徐々に増えると予想されます。</p> <p>2. 小冊子の概要(案)です。前回も説明しましたが、(1)編集・発行については、浅川清流環境組合が行います。ただし、内容につきましては、3市及び市民会議の意見を斟酌し、浅川清流環境組合が契約する事業者の方で取りまとめる形になるかと思えます。</p> <p>(2)仕様について、ページ数は12ページ。他の施設の子供向け小冊子を見ると、大体4ページから8ページが多く、12ページは全体としては多い印象があります。それから、紙質ですが、再生コート紙、フルカラーで、印刷部数は当初1万部を予定しており、2、3年分確保しつつ、今後の状況変化の可能性もありますので、以後、数年ごとに見直しながら改訂していくことを考えております。</p> <p>(3)配布の対象は、当該施設に団体で見学した小学生全員、また、引率の先生にも配布します。あとは、見学校以外からも要望があれば積</p>

極的に配布してもよいと思います。

(4) 予算については、組合の方で、令和5年度予算に計上すると確認しています。

(5) 作成のスケジュールですが、組合議会で議決後、いよいよ4月以降より印刷業者を選定して具体的な編集作業に入っていきます。当然その後は校正が2、3回程度必要だと聞いておりますけれども、9月ぐらいまで約半年かけて校正作業を終わらせます。そして、10月ぐらいに印刷して11月に納品というイメージで現時点ではこのようなスケジュールになるものと推定しております。

配布の時期ですが、令和6年1月ぐらいを予定しております。ただし、小学校の団体見学については、例年11月頃には終わってしまいますので、実質的には令和6年度からの開始となり、おそらく6月ぐらいから4年生はごみの勉強が始まると思いますので、6月以降11月ぐらいまでの間、順次配布していくことになるかと思えます。

3.小冊子のコンセプト、これも前回説明させていただきましたが、

(1) 小冊子は施設見学時の説明資料にするとともに、児童が持ち帰って補助教材としても利用できるということで、ここが今回のポイントになっております。

(2) 可燃ごみ処理施設の説明以外に、3市の説明、共同処理の目的、ごみ・資源物処理の流れ等を記載し、児童が住所地以外の2市にも興味や親近感を沸くような内容にします。

(3) ごみ処理が多数の人によって行われ、施設周辺の人たちの理解で成り立っていることを理解し、児童が関係者への感謝と、その裏返しになるんですけれども、責任を認識する内容にしたらどうかと考えております。

(4) 一方的な説明ではなく、児童が疑問に思うようなことにも答える、

(5) 各市の副読本に記載のない世界的な課題である食品ロス問題、それからプラスチック問題等を取り上げまして、このことについて児童に関心を持っていただき、自分たちで何ができるか考える動機付けにしたらどうか考えており、既に小学校では、SDGsについても積極的に勉強しておりますので、丁度よいと思います。

(6) ごみ・資源物量等の計数は、毎年計数が変化しますので、A4で挟み込み、毎年入れ替える方式にしたらどうかと考えていますが、委員の方から提案があり、現在は全児童がタブレットパソコンを持っていますので、それを活用して、QRコードから表示できるようにしたらどうか考えもありますが、これは今後の研究課題ということになるかと思えます。

4.小冊子の誌名と内容(案)ですが、前回の全体会議で委員の皆さんからいくつかご提案をいただきました。しかし、あくまでも第一義的には見学用の冊子であるということ、また、組合の予算で作成しますので、やはりこの可燃ごみ処理施設という言葉は入れた方がよいとの考えでこのような形となっております。また、児童が3市の共同可燃ごみ処理設備に親近感・連帯感を持つように、可燃ごみ処理施設の前に「私たちの」という言葉を入れております。それから、この小冊子が児童のごみ問題及び環境問題を考える動機付けになってほしいということを期待して、サブタイトルとして「考えてみよう!」と入れております。

(2) 内容については、資料が2つあり、1つはページ割表です。こ

れは各ページに大体どんな内容かということに記載しております。もう1つは冊子形式にした資料となります。あくまでもイメージとしてご理解いただきたいのですが、表紙では、上段にタイトル及びサブタイトル、中段は施設の写真がよいのではと思います。施設写真左側のところにカワセミのイラストがあります。3市とも市の鳥はカワセミとなっております。それから、浅川清流環境組合ニュースを見ますと、これもイラストでカワセミが出ていますので、3市と組合との連携の象徴としてカワセミを入れたらどうかという趣旨となります。また、右側に子供が2人おりますが、男女1人ずつの児童のイラストを入れて、このキャラクターが全体の案内役みたいなものを担っていただき、子供目線で親しみやすさをイメージしております。

下段は3市共同ですから、3市のイラストの略図、そして、この施設のおおよその場所が分かるようなイメージとなります。

次に表2、「はじめに」ということで、内容はこれから考えていきますが、共同処理の目的、3市の協力、周辺の皆さんへの感謝、児童への期待、この冊子はこのように活用してほしい等を記載したらどうかと考えております。

下段の用語の統一のところは、各市によって分別の種類、区分の名称も異なるケースもありますので、統一した用語を記載したらどうかと考えております。

1ページに入りますが、まずは「共同処理の3市を知ろう」ということで、3市の紹介をイメージしております。

2ページと3ページは見開きにしており、共通のことで、「3市のごみの種類とゆくえ」ということで、3市の分別、中間処理、最終処理の流れ、ごみ収集車、指定収集袋をイメージしております。細かくやり過ぎると分かりやすくまとめるのが非常に難しい気がしております。しかも、3市とも同じような絵になる恐れもありこのページは相当工夫する必要があるかと思っております。

下段の空いているところは、分別ルールを守ろうとか、注釈みたいなことをイメージしております。

4ページと5ページの見開き部分、6ページは可燃ごみ処理施設を見学しようということで、児童が施設を見学したときの説明の中心となる部分となります。見開き部分は工程図を大きく書いて、その周りに工程の流れに従って、説明とその拡大写真みたいなものを載せたらどうかと考えております。ここもいろいろ工夫が必要かと思っておりますが、こんな形で、ちょうど一応見開きのところで、2ページ、ぶち抜きでこれを作ったらどうかということです。

6ページは、上段は施設の説明を補足するような項目となります。下段は可燃ごみ処理施設に関する質問と答えということで、以前に私の方で施設側に質問した事項、また、それ以外にも想定される質問について約40項目リストアップしておりますので、その中から一部を当該部分に入れるものと各ページに入れるものとで割り振るのはどうかと思っております。一番下の囲みは可燃ごみ処理施設からのお願いということで、例えば分別の徹底ということで、このような異物が混入していますよとか、このような形で考えております。

7ページは、最終処理場についてであり、焼却後に灰になったのがどうなるのかという問題もありますので、二ツ塚広域処分場の紹介をいたします。エコセメントや現在の埋立地の状況、一番下に施設周辺の皆様

への感謝する項目を盛り込んでおります。

8ページと9ページは、SDGsについてですが、前回の全体会議で續木委員より、気候変動、温暖化等の問題も載せたらどうかというご意見をいただきました。3市とも2050年のゼロカーボンシティの表明もしております。また、御存じのように、SDGsは17の目標があるんですけども、13番目に「気候変動に具体的な対策を」という項目も掲げられておりますので、地球温暖化、食品ロス、プラスチック、この3点セットで進めていきたいと考えており、スペース次第ではありますが、この部分は変更になる可能性が十分あるものと思っております。

それから、下段のSDGsの説明については、8ページと9ページを見開きで説明できたらどうかと思っております。

最後に裏表紙となる表3ですが、ここは副読本にない、「リサイクルで何に生まれ変わるか？」を入れております。各家庭で分別して出したものが、リサイクルによってどのように生まれ変わるかということで、ここはある程度主要なものをイラストや写真等で表現できればと思います。

前回も質問が出ましたがこの冊子を施設見学の際にどのように使うのかというご意見もあったと思います。これは組合さんの方とも今後協議することになりますが、恐らく説明は短時間になると思われしますので、できれば目次のところでこの冊子のアウトラインを説明していただくことになるかと思っております。持ち帰って今後の補助教材として、また、環境問題に関する際にも1つの教材として使用してほしい旨を補足していただきたいと思っておりますので見学時に引率の先生方へお願いするような形で、目的とか、どういうふうで使用してほしいかは、見学時にぜひお話をしていただいた方がよいかと思っております。

冒頭の作成案について（報告）資料に戻りますが、3ページの最後、5.小冊子の編集について（案）、ここについては行政委員の方から説明をお願いします。

今井委員（小）

情報発信・環境学習グループの小学生見学用小冊子の編集の流れについて説明させていただきます。

ただ今の説明にありましておきまして、組合の方におきまして、委託事業者を選定、契約していただいた後、委託業務スケジュールやデザイン構成等に係るキックオフミーティングを小委員会の方で行っていただきたいと考えております。その後、初稿、また第2校の確認におきまして、委員の皆様から修正意見等をいただきながら調整を進めさせていただき、最終校の確認及び利活用に係る御提言の内容などを確定いただいた上で、冊子の発行に向けて取り組んでまいりたいと考えています。なお、委託業務スケジュールのキックオフミーティングから第2校の確認、調整までにおきましては、委託事業者に御同席いただいた上で、共同で取り組んでいただければと考えているところです。

教育委員会に対する社会科の副読本の内容に係る調整につきましては、各市行政委員の方で各市の教育委員会に照会し、対応することを考えています。

行政側で検討する内容、調整事項につきましては様々あるかと思っております。例えば、「3市のごみの種類とゆくえ」については、フォーマットを統一したうえで各市で作成する必要があります。ページ割表の各項目については、3市の課長級の会議で検討を進めさせていただき、整理

	<p>した内容を小委員会の方に御報告させていただくような流れを取ってまいりたいと思っています。</p> <p>SDGsの項目につきましては、減量グループの方でこれから展開されると思われる取組の内容、こういったものも含めて御紹介させていただく余地があるかどうか、こういったものも進捗を見ながら判断してまいりたいと考えています。行政委員の方からの報告は以上です。</p>
八ツ藤委員(国)	<p>ありがとうございました。今後、我々情報グループとしましても、編集作業の進捗状況におきまして、ただ今お話があったように、随時我々の考えも発言していきたいと思っており、また、その内容については全体会議の中でも進捗状況を報告し、皆様の御意見も伺わせていただければと思っていますので、よろしくお願い申し上げます。以上です。</p>
宮脇委員長	<p>ありがとうございました。内容が進捗しており、より具体化が進んでいる状況であるかと思えます。</p> <p>それでは、ただいまの御報告につきまして、御意見、御質問があればお願いいたします。</p>
小野寺委員(日)	<p>減量グループとの関連で言いますと、減量グループでは、施設の寿命が来る30年後にはできるだけ可燃ごみをゼロに近づけるという大きな目標を掲げています。したがって、立派な処理施設があるから安心して可燃ごみを出せるということではなく、今後減らす努力をしなければならぬということを前面に出していただきたいなと思います。その1つの手段として、食品ロスの削減とか、それからプラスチックの削減というのがあるわけですが、まず大きな目標として可燃ごみを減らす必要がある。先ほど、気候変動等を何らかの形で盛り込みたいというお話もありましたけど、可燃ごみを減らすということはCO<sub>2</sub>の削減に直結しますので、ぜひ検討いただければと思います。</p>
宮脇委員長	<p>ただ今のご意見について、情報発信・環境学習グループの方でご検討いただくことについてはいかがでしょうか。</p>
八ツ藤委員(国)	<p>ご意見を踏まえて検討させていただきたいと思います。</p>
宮脇委員長	<p>ありがとうございます。細部の構成については、まだ、調整が可能かと思えます。ご回答いただいたように、検討の一つとして受け止めさせていただきます。その他はいかがでしょうか。ご質問だけではなく、例えば、こういうところはもう少し深めてほしい等のご意見もお願いしたいと思います。</p>
高尾委員(日)	<p>今後の進め方の中で、一定程度は行政側で作成していかなくてはならない部分は当然あると思うのですが、行政がすべて行うとなると、どうしても中身が堅くなってしまう傾向があり、また、内容的にも行政目線の色が強くなる懸念があります。例えば、各項目の中で市民目線での着眼点での意見、アイデア及びトピックをいただき、そこに行政が色をつけていった方が、今回の資料では子供目線のタイトルであったり、また、内容が取り入れられているので、それらの議論もしていただければなと思います。既に情報グループの中で意見が出ているかもしれませんが、</p>

<p>小野寺委員（日）</p>	<p>今後の作業に生かしていく意味でも、まだ作成に時間がありますので、各委員のご意見もいただければと思います。</p> <p>ただ今のご意見について、例えば食品ロス削減でしたら、やはりもったいないという意識が大事であり、その辺を強調していくと、それから、プラスチック削減については、使い捨てというライフスタイルの転換を盛り込んでいただければと思います。</p>
<p>八ツ藤委員（国）</p>	<p>ありがとうございます。問題はこれからどのように編集され、誰が記事を作成して、誰が評価していくところだと思います。例えば、先ほど話が出た3市のごみ処理の流れについては、それぞれ3市での調整により共通フォーマットにするとか、そういった細部での調整を進めていく必要があると思います。まずは、たたき台がないとできないと思います。</p> <p>もう一つの問題点として、私も不明な部分がありますが、編集を外部業者に委託するが、外部業者はどこまで行っていただけるのか、ある程度の項目出しがあれば、文章を作成いただけるのか、我々が全て作成するとなると、我々は年齢構成が比較的高く、逆に若い人に考えてもらうとか、先生の助言をいただくとか、そういうことも必要だと思います。あと、非常に難しいと思っているのは、基本的には4年生向けになりますので、振り仮名を振るか否かの判断はどうするのか、それから、専門用語が出てきますので、それをどう分かりやすく説明するのかということも難しいと思います。委託業者が行わないのであれば、当然ながら行政、また、我々も可能な範囲で意見を出し、場合によっては専門家や先生の意見を聞きながら、例えば、書体をどうするかとか、これから具体化するときにぜひ検討させていただきたいと思います。</p>
<p>宮脇委員長</p>	<p>ありがとうございます。ご指摘のとおりだと思います。全て委員の方に文章も全文書いて、小学生に読める文章まで仕上げなさいと言われると、それは大変ですし、私も小学生向けの文章は書けませんので、教育委員会とか、また、小学校の先生にもお願いできるかもしれませんし、あと、先ほど言われたように、ごみ処理フローは完全に行政で図式化とか、フローまで作りますので、あとは見た目をよく整え、また、全体的なバランス等は委託業者行うと思うので、うまく連携できればよいと思いますし、あと、小野寺委員や高尾委員からもありましたが、市民目線と行政目線はかなり違うと思うんですよ。なので、どういう部分を伝えたいのかが大事となります。現状の事は行政側が取りまとめればよいと思いますが、食品ロスを削減するには生活の中でどのようなことをすべきか、また、プラスチックをどのように生活の中で減らしていくかは、やはり市民目線が必要だと思います。大事なものは、それぞれの立場の方が役割分担をしたうえで、互いに補完していけばよいと思います。他にご意見ありますでしょうか。</p>
<p>加納委員（日）</p>	<p>日野市の加納です。小野寺委員の意見にあった可燃ごみを減らすというのは同感であり、小学生が見学に来たときに、資料冊子の「はじめに」の中に「これからの社会を担う児童への期待」という項目があるので、可燃ごみを減らす工夫を一人一人が考える文言を入れたらどうかと思います。</p>

小野寺委員（日）	<p>ただ今の議論は編集という点についてだと思いますが、外部に委託するというのは編集のどの部分なのか、その辺ははっきりさせた方がよいと思います。少なくとも概要的な骨子はこちらで作らなければならないと思っており、やはりごみについての理解度は外部の方より我々の方が精通していると思います。表現上の問題であれば外部の方がよいと思いますが、内容についてはこちらでしっかりと練りに練って作る必要があるのではないかなと思います。</p>
八ツ藤委員（国）	<p>契約の問題にも繋がってくるので、お金に関わってくるかもしれません。あと、市民目線という話がありましたが、これは当然、市民会議全体の問題だと思いますので情報グループの中で進めていきますが、場合によっては減量グループにもご協力いただくとか、そういう事をご検討いただければと思います。</p>
宮脇委員長	<p>ありがとうございます。大変よい方向性を示していただいたのではないかなと思います。</p>
高松委員（日）	<p>これはすごくいい取り組みだと思います。ただ、3市合同の取り組みとしてお金をかけて発行しますので、小学生に冊子を読んだり、また、施設を見学した後に、どのようにごみ減量をしたらよいか、アイデアを募集して、最終的に一番よいものを載せたりして、小学生からの反応を取り上げてもよいと思います。</p>
八ツ藤委員（国）	<p>現在、4年生の時点でごみのことを勉強しますが、最終的にはそれぞれのグループを組成して、例えばごみ問題から発展して環境問題を深掘りしようみたいな形で勉強しています。その中で、子供の自主性、まとめ、発表等の様々な能力を養っていく中で、ただ今の募集も大事だと思いますが、学習の一環として、この冊子も使用しながら、このように動かした方が効果的ではないかと思っております。</p>
宮脇委員長	<p>ただ今の高松委員や八ツ藤委員のように、学校内での教育を深めていくという部分も大事であるし、その中で何か合わせ技をすると、例えば、組合のホームページにて募集をする等、いろいろな連携ができそうな気がします。このままですと、確かに一過性で終わってしまう可能性もあると思います。このような組合のホームページとかに少し掲載ができるような連携ができるとよいと思います。そうすれば、組合のホームページが少し柔らかい感じになるかもしれないです。そうなれば、見学先で公表されていると見てみようかという意識となると思います。</p>
高尾委員（日）	<p>やはり小学生のアイデアには保護者は耳を傾けると思います。しかし、限られたページの中で全て表現するのは難しいので、先ほどの小冊子の案にある、例えば計数のところにQRコードみたいな物を付けて保護者向けのものを取り入れて、その中にごみを減らすとか、プラスチックを減らすとか、トピック的な部分について親子で話せるような、そんな仕掛けがあっても面白いかなと思います。</p>
續木委員（小）	<p>小学生に文書で伝えるのもよいのですが、冊子の表1のところにカワセミのイラストがあったかと思えます。例えば、イラストでカワセミの</p>

宮脇委員長	<p>親と子供がいて、カワセミのお母さんが子供にプラスチックは害があるから食べちゃダメとか、会話形式で載せることができれば、面白いと思います。ただ文章のみでプラスチックごみを減らそうでは、既に聞き慣れてしまっていると思います。</p> <p>ありがとうございます。やはりインパクトがあるというのは大事なので、様々なアイデアを出していただいて組み込めるとよいのではないかなと思います。ありがとうございます。</p>
西村委員（浅）	<p>編集作業については今後また行政及び各委員との間で詰めていくものと思いますが、予算化につきましては、去る2月8日に組合議会を開催しまして、当該冊子の委託料を含めた来年度予算が議決されたのでご報告させていただきます。したがって、予算は執行できる状況となっております。</p>
宮脇委員長	<p>ありがとうございました。大事なところで、本当に予算がなければ先送りみたいな話になるとよろしくないの、予算化が実現してよかったですと思います。それでは、大体ご意見は出尽くしたかと思しますので、少し先へ進ませていただきたいと思います。</p> <p>続いて議題（2）ですけど、減量グループからご報告をよろしく願います。</p>
林委員（小）	<p>ただ今、情報発信・環境学習グループの報告を聞いていましたが、かなり具体化されており、また、随分立派なものが進んでいるという印象ですが、減量グループは昨年11月に報告した中間報告からそれほど大きく進展していません。本日、お手元にお配りした資料については複数ページあるのですが、後半の資料は、基本的に今までやってきた活動内容をそれぞれの時点でまとめたものを添付してあります。なぜかと言いますと、本日に向けて報告書を作っている中で、これまでの減量グループでの検討を進めきた中で一部の内容が置き去りにされてしまったものもありそうな気がしており、過去を振り返って確認できるようにするためです。したがって、今日ご報告するのは、1ページ下段に「2022年度の最終的な活動成果は以下の通り」と記載しておりますが、これから先をご報告したいと思います。</p> <p>1として、コープ生協との協働事業（案）の提案ですが、これは食品ロス削減に向けての減量の取組としてこれまで検討してきました。形としては市民参加型ということで、コープ連合会の東京都本部に行政側の委員の方々に出向いていただき調整を行いました。その結果、2ページ上段になりますが、コープ側より、浅川清流組合可燃ごみ施設の見学依頼がありましたので、3月23日（木）に施設見学終了後、同施設内で減量グループ委員とコープ関係者との間で打合せを行うこととなりました。しかし、コープ関係者の方々は、実際はコープの事業主体を担う方というよりは、コープ会員の代表者であり、市民の方が出席するというので、その方々と話をする場を持つということになっております。</p> <p>その中で、1ページに戻りますが、①として、例えば参加型で、割り当てられた食材だけで工夫して料理を作るイベントなんてどうだろうという話が出ています。これは、冷蔵庫に残りがちな素材を用いて、時間内に料理を作るなんていうのをやれないかなと、これは我々の方から</p>

提案しようかと思っております。

それから、②はモニターによる食品ロスのチェックです。これは前回の本会議におきまして、中間報告の際に提案をいただいたものであり、チェックリストを用いて100人ぐらいのモニターを募ってやったらどうかという内容だったのですが、現在、検討している内容としては、各市の組合員、10人ぐらいをめどに募集を行い、例えばチェック結果を比較して、食品ロスがどれぐらい出てくるのかというのを把握してもらったらどうだろうかということです。実際にイベント時期は10月の食品ロス削減推進月間を考えています。

最後に③として、消費行動マナー啓発チラシの作成ですが、これもいろいろと議論しているところですが、具体化するには至っておりません。この件についても3月のコープ側との打合せの際にご意見を聞いてみようかと思っております。食品ロス削減については消費者庁のホームページで既に取り組んでいる資料がありますので、その辺を参考にしつつ、何か参考となるものを見つけていこうと考えております。

2ページ、2としてプラごみの減量・資源化促進ですが、これまで各市で実施に関する調整が行われており、小金井市では㈱セブン-イレブンジャパンと本年4月から13店舗にペットボトル回収機を設置すると聞いております。国分寺では昨年12月にサントリーホールディングス㈱との協定を締結し、令和5年度より行政回収分したペットボトルの水平リサイクルに着手するというのを聞いています。日野市では㈱セブン-イレブンジャパンと令和5年度実施の方向で検討中とのことですが、ペットボトルのベール化に懸念があり調整中との報告を受けています。それから、ドラッグストアへの市民協働でのアプローチというのは、店舗側がペットボトル及びプラごみ削減と回収に乗り気でないという話を聞いておりますので、これは来期の課題だと考えております。

3として紙おむつ処理の見通しですが、紙おむつは前期より話題として挙がってはいるのですが、なかなか難しいということで、各事業者から現状をヒアリングしようという意見が出たのと、資料には記載しておりませんが、たしか東京都の話を知ろうという意見が出ております。令和5年度も検討するため、引き続き業界の動向を注視していきますが、実は昨日偶然に見つけたのですが、使用済み紙おむつの炭素化リサイクルシステムの実証実験の報告を確認しました。花王と京都大学が一緒になって炭素化リサイクルというものを進めているようなのですが、様々な開発を進めており、この報告でも令和6年以降の実施と書いていました。紙おむつを取り巻く状況としては、これから更なる取り組みの可能性もあり、もう少し長い目で見守りつつ、我々も何ができるか考えていかなければいけないと考えています。

4として紙ごみの分別回収ですが、まずは啓発が第一であり、可燃ごみの中に混入している資源となり得る紙ごみの量が多いのは、やはり啓発を第一に考える必要があるとしており、今回意見として出たのは、各市のごみカレンダーと一緒に、全戸に保管袋を配布したらどうだろうかという意見が出ました。要するに、各家庭で紙ごみを分別する習慣をどうやって身につければよいか、それにはやはり保管袋を配布するのが一番いいのではないかとありますが、これには予算化が必要ということもあり、現状はまだ検討段階となっております。これは3市との間で引き続き話し合いを続けていく必要があると思っております。

5として浅川清流環境組合ニュースの活用という話が出ており、これ

	<p>は夏と冬の年2回、3市ごみ減量推進市民会議での活動を何らかの形で告知するページを設けようということです。組合には了承を得ていると聞いており、令和5年度の最初の記事は、市民会議の紹介を記事にし、その後は、例えば、可燃ごみ減量のための紙ごみの削減や、賞味期限・消費期限を知って食品ロスを減らそうといった記事を書いて、本ニュースは全戸配布されており、より多くの市民の皆さんの目に触れるようにしていきたいと考えております。</p> <p>最後に、報告資料の中にはないのですが、先ほど、小野寺委員からご意見が出たとおり、30年後の可燃ごみをゼロに近づけることを目標に、その間は10年で半減、次の10年でさらに2分の1、最終的にゼロに近づけようという大きなテーマを設定したのですが、具体的にどうするかということに関しては、ただ今減量グループでこれまで議論してきましたが、個々の問題に関して数値化されていないのです。これは来期の課題でもあると思うのですが、少し考えていく必要があると思っております。例えば、10年で半減するには年間当たり6.5%ぐらいの減量を図っていかない数字です。この6.5%は全体の量であるため、個々に考えていくと、紙ごみや食品ロスに関してもこの数字を念頭に置いて活動する必要があるのではないのかなと思っております、この点についてはこれから少し議論していきたいと思っております。</p> <p>以上、減量グループがこれまで行ってきた活動の報告を終了いたします。</p>
宮脇委員長	<p>ありがとうございます。それでは、ご意見、ご質問があればお願いいたします。</p>
八ツ藤委員(国)	<p>ただ今の最後の部分ですが、30年後にごみをゼロに近づけると、それは理想論としてももちろんそれでよいと思えました。行政側は10年単位で策定する各市の基本計画の中で、当然数値的なものを持っていますので、この部分を我々はあまり言えないのではないかと思います。また、それを公表するとか、具体的に提案するとか、行政側も困ってしまうのではないかと思います。その点はいかがでしょうか。各市の事情もあるし、また、今後の技術開発はどういうふうに進んでいくのかということも見通せない、30年後ゼロに近づけるといいう広大な目標はいいと思うんですけども、具体化するには各市のそれぞれ基本計画に入れてもらうとか、各市の事情が相当違います。また、各市の基本計画の開始年度にばらつきがあります。さらに、市民会議として精緻な議論は恐らくできないでしょうし、仮に議論したとしてもそれは無責任で根拠のない数字にならざるを得ないと思っております。</p>
林委員(小)	<p>ご指摘のとおりだと思います。ただ、これまでこの会議で活動しながら気になっているのは、本日も小野寺委員が言われたように、できるだけゼロに近づけるようにやりましょうという目標を掲げているわけです。したがって、日々の日常生活の中で、市民の皆さんに参加していただくためには何かが必要なのかなという気がずっとしていました。その中で単純に5%とか6%という数字を設定することにより、やろうと思う方々に数値的な目安があれば、さらに広がるのではないかなという思いがありました。小金井市の基本計画では、計画最終年度の目標として1人1日当たりの家庭系ごみの量として355グラムを設定してござい</p>

小野寺委員（日）	<p>すが、実質的な活動として評価し切れているかという点、必ずしも数字として評価し切れていない。要するに、ただ実践して努力して結果的には減りました。結果だけなのです。プロセスも大事であり、そのプロセスの中に少し皆さんに減量意識を持ってもらえるような仕組みを持ち込めるのかという事を実は考えたいと思っております。</p> <p>確かに、行政に対してこの会議の中で数字を掲げるのは非常に難しいというのは理解しておりますが、その点が非常に自分の気持ちの中で揺れている部分となっております。</p> <p>30年後に可燃ごみをゼロに近づけるといえるのは、夢物語みたいな受け止め方をされているのですが、これは第1期の本会議の中で打ち出したものであり、その時の大前提として、生ごみの資源化というのを同時に打ち出しているのです。この施策がなければ実現は難しいです。実現するためには、例えば、資源化施設を各市で整備するか、また、3市で整備するかは別として、施設を整備するのは財政的に無理だと思います。現在、多摩地域内にも資源化施設が整備されてきており、そういうところに委託するという形をとるのが最善策だと思っております。</p> <p>そのためには、いきなり全市域で生ごみを分別収集するのは無理なので、初めはモデル地区を設定して、500世帯とか1,000世帯ぐらいから分別収集を実施していくところから手をつけていったらどうかと思います。これならば決して無理な話ではないと思うのです。予算的にもそこまで大きな予算が必要となるわけではないので、ぜひチャレンジをお願いしたいと思っております。まずこれを最初の10年間で着手していただければと思っております。よろしく願いいたします。</p> <p>先日、多摩地域全自治体の過去10年間でどれぐらいごみを減らしたのか調べたら5%でした。現在のやり方でしたら難しい話なので、生ごみの資源化から風穴を開けて、それを契機に市民の方々の意識を少しずつ変えていき、10年間で5%という壁を何らかの形で突破していただきたいと思っております。</p>
宮脇委員長	<p>ありがとうございます。何点かご意見をいただきました。初めの方では、数値目標について、行政の部分と、市民目線というところで、それが何となく同じ方向に向いているのですが、議論が多少ずれていたのかなという感想です。行政の場合、基本計画というのはこれまでの状況を踏まえ、いくつかの施策を考えて、そこからさらにどこまで減量できるというところを丁寧に現実的な数値であると思っておりますが、多摩地域の自治体の数値目標はかなり高い目標設定となっており、私の感想として、市民が頑張っても難しいと思われる数値を設定されているのです。それは、先ほど出ました本当のごみゼロに向かうという方法論での数値の目標設定ではないのです。しかし、逆に市民目線で見ると、やっぱり理想としては可燃ごみゼロとなり全部資源になってくれるのが一番いいよねという立場で、ではどんなことができるんだろうって考える上でも、身近なところで、例えば、はがき10枚捨てるのをやめたらどうなるのか、みたいなものが生活者としての立場で必要だと思うのです。これは紙だけではなくて食ロスの話とかあらゆる事で使えるものだと思います。その辺りから一般論でもなく3市のデータを使って少し数値を見てみるというのは非常に貴重なことではないかと思っております。八ツ藤委員よりご意見のあった部分とはまた違う意味の数値、定量化とい</p>

	<p>うことかなと思いますので、それぞれの方向も大事なのではないかと考えた次第です。ですので、ぜひ少し進めていただくべきではないかと個人的には思っています。</p>
<p>佐藤委員（国）</p>	<p>私は減量グループですが、先ほど小野寺委員のご意見のとおり、資源化も大事です。しかし、その前のリデュースが大事であり、私は食品ロスをこれまで重要視しておりましたが、減量グループのリーダーである林委員がいろいろと心配している気持ちは理解いたします。私達の気持ちとして、30年後はごみゼロになることを描きながら一歩ずつ実践していく必要があります。今回このように具体的に行政の努力でコープ側と話ができるというのはすごい前進だと思います。これまで様々な事を検討してきましたけど、具体的な形になったというのはすごいと思います。特に、報告にありました、モニターによる食品ロスチェックというのは、本当に少ない人数ですけれどもこれがやはり第一歩かなと。これをやって、食品ロスを各家庭で5%とか、そういうのは難しいかも知れませんが、まず自分自身が家の食ロスがどのぐらいあるのかと、そして、自分の事としてみんなが意識して初めて食ロスの意識が高まっていくと思います。今まで大変でしたけど、このたび、一歩具体的なものが10月にできるというのは、本当に大きな一歩だと思うので、林リーダーとともに頑張っていきたいと思います。</p>
<p>宮脇委員長</p>	<p>私もまず、情報発信グループはすごい形になってきているというのは私もそう思います。しかし、事前に資料送付がありましたので拝見しましたが、減量グループも進んでいると感じました、今までたくさん項目出しをしていただいた中で、実際に具体化に繋がっています。ペットボトルの話も減量グループの中で様々な意見が出ているのがだんだん行政の方々に通じて進んでいる。もちろん従前から実施している取り組みがさらに発展する後押しができたとか、いろんな意味で進んでいるのではないかなと思っております。</p>
<p>小野寺委員（日）</p>	<p>30年後にごみをゼロに近づけるといいうのは、あくまで可燃ごみをゼロに近づけるといいうことであり、リデュースでごみゼロに近づけるといいうのは難しいと思います。</p> <p>生ごみの資源化について強調しましたが、それ以外にも資源になるごみは、まだ可燃ごみとか不燃ごみにいっぱい混入している状況です。例えば、紙ごみにしても半分ぐらいは可燃ごみに入っている状況です。そういった資源化を徹底することは、先ほどの生ごみ以上に大きな要素だと思います。</p> <p>例えば、ロサンゼルスではゼロウェイストというのを掲げまして、実際に数年前に80%まで減らしました。この内容を見ますと、やはりほとんど資源化の取り組みによるものでした。リデュースも当然ながら影響があると思いますが、資源化というのが一番焼却ごみを減らす上で非常に大きな要素となります。この辺も今後、減量グループの中で深掘りしていく必要があると思います。</p> <p>先ほど、紙ごみの処理について資料にありましたが、紙ごみというところと新聞とか雑誌とか全て入ってきますが、特に雑紙です、雑紙というのは可燃ごみに混入する比率が最も高く、分別する動機付けとして雑紙を入</p>

れる保管袋とか、回収袋とも言いますが、これを全戸配布してみたらどうかと意見出しをしました。一度行い、果たしてどれだけの世帯が動いてくれるかというのはなかなか難しいですが、他市のアンケート調査結果を見ますと、6割ぐらいは何らかの形で行動変化がみられているのです。全戸に配ってそれだけの効果が出れば、これはすごいことであり、こういうこともぜひ行政側にチャレンジしていただきたいと思っております。

宮脇委員長

ありがとうございます。紙ごみ関係も重量ベースでは非常に大きいので大事な要素だと思います。

あと、佐藤委員から発言がありましたが、リデュースも大事な要素であり、これは全部一体だと思います。3Rですのでまずは、使わない、ごみを出さない、要らないものを買わないところがリデュースとなりますが、着実に取り組みが広がってきていると思います。私が子供の頃は高度経済期の終盤ぐらいですから、大量廃棄の時代から40年ぐらい経過しており、今後、このような取り組みの成果が出てくるのではないかと思います。今後も、委員の皆さんから出た意見を各市の広報にて反映させていただきたいと思っております。

齋藤委員（小）

本日、いろんなご意見を拝見して私が思ったのは、10月に食品ロス削減に関するイベントが行われるということで、やはりごみの減量を誰が一番意識してほしいかということ、特に若い世代の方々だと思います。今は100均一で簡単に物が買えて物が捨てられる傾向があるので、若い世代の方々の目に触れるようなことを取り組んでいくことも大事だと思うので、イベントを実施し、また、そのイベントで作成したものを、例えば、各市の市報にアイデア料理を載せられる機会等を持って、様々な方の目に留まることが大事なかなと思いました。例えば、リンゴや大根でも、皮をむかないで食べるとか、そういうことっておそらく若い方は実践していないかと思えます。もちろん農薬がたくさんついている場合はきちんと洗わなければいけないのですが、このような観点からもごみの減量につながっていければよいかなと思いました。

高尾委員（日）

国分寺市、小金井市、日野市は、環境省のランキングを見ても全国的にかなり上位を3市とも占めている中で、かなり様々な施策を実施して、それに市民の皆さんがご協力していただいているのかと思っております。齋藤委員さんの発言のように、実際に若い世代に浸透しているかということ浸透してない。市民に対して一律に情報発信ができるのは行政しかないものであり、この情報をどう伝えていくのかということが大事になると思います。先日、広報に関する研修がありましたが、1年間に扱われる世界の情報というのは世界中の砂粒の数よりも多いと言われており、あふれ出る情報の中から意識の高い方は実践していただいますが、意識の低い方にどうのうに響くようにしていくのか。佐藤さんの発言にもあったように、そういう意味では参加型とか、そのような人の目に触れるということも大事なのかなと思っております。今回、浅川清流環境組合ニュースの活用と報告がありましたが、そもそも3市市民会議ってどのような活動をしているのかということのも、3市の市民の皆さんに伝えていかなければいけないという役割もあると思います。情報をどのように伝えていくかということも、やはりいろんなアイデアをいた

<p>石垣委員（国）</p>	<p>だきながら、やはり、行政は情報を出して一方通行で終わってしまうところもあると思うので、ぜひうまく巻き込みながらやっていくというところを模索していきたいと思っております。</p> <p>さらに、今まで全国的にも頑張っている3市がさらにもう一步進むためには、最終的にはやはり市民の皆さんのご協力が必要だと思っておりますので、いいアイデアがあれば、引き続き、よろしくお願いいたします。</p> <p>私はツイッターを見る機会が多く、その中に、ごみを収集している芸人さんが発信しており、その方のフォローをしているのですが、その方が、例えば、この紙は燃えるごみに入れてねとか、こういうものはこうですよというような、具体的な写真を載せて140字のツイートの中で言っています。ですので、すごく分かりやすいです。また、例えば、段ボールの中に梱包材として入ってきたけれども、この中に「これはリサイクルできます」というマークのある紙があるとか、具体的に出してきているところがあります。それを見ていると、確かに分別するのに役に立つと思います。3市ともに、ごみの分別アプリや分別辞典等があり、市民の皆さんがそのアプリにアクセスしているかというところではないと思います。こういうツイッターを活用して3市で発信できれば、若い人にも伝わりやすいのではないかと思います。</p>
<p>宮脇委員長</p>	<p>SNS関係は発信方法が結構難しいので、ぜひ今いただいたような意見のように、きっかけには非常に大事だと思いますので、すぐできるかどうかは別として、行政側も少し進めて検討していただけたらいいなと思います。</p>
<p>今井委員（小）</p>	<p>行政としても情報発信は非常に大事だと思っております。小金井市では、昨年10月から地域情報サイトジモティーを使って粗大ごみのリユース事業を始めますが、最初はチラシや市報では利用が伸びなかったんですね。ただ今石垣委員からありましたようなツイッターやごみ分別アプリ、こういったツールのプッシュ通知を含めてメッセージを発信するようになってから、大分利用者が増えてきたという実感があります。やはりジモティーを使ってよかったと思ったのは、今までリサイクル事業所を利用していた年齢層よりも若い方の目にも留まるようになってきており、メディアの使い方、年齢層やターゲット、こういったものも踏まえて、いろいろ情報発信していかなきゃいけないなというところは行政としても強く感じるところです。</p> <p>今回、情報発信・環境学習グループの方で小学生向けの冊子、小学生は将来の社会を担っていく人材だと思うので、こういったところもしっかり情報を発信していく。その中でも、分かりやすいように視覚的に伝わるようなところも含めて考えていきたいと思っておりますので、そこは行政側も努力してまいりますので、ご協力をよろしくお願いいたします。</p>
<p>小野寺委員（日）</p>	<p>情報提供ですが、消費者庁で毎年、食品ロスについてのアンケート調査を実施しており、その中で面白い結果が出ております。年齢別に食品ロスをどれだけ意識しているかという質問があるのですが、その結果として10代が結構高く、逆に20代、30代が低く、40代、50代、60代と徐々に高くなっていく傾向となっております。10代が高いと</p>

<p>八ツ藤委員 (国)</p>	<p>というのは、やはり環境教育の効果ではないかと私は思っております。</p> <p>紙ごみの分別回収というところが、報告の中ではありますが、当然3市は既に紙の分別収集していることと思います。恐らく、可燃ごみの中に入っている紙ごみの割合は3割ぐらいだと思うのですが、その中に本来資源として分けられるのが混入しているかという問題であり、袋の問題ではなく、個人の意識の問題であると思います。</p> <p>もう一つ言いますと、どういう紙が資源となるかは、引取先によって決まってくると推測します。3市の分別基準を見ると、微妙に違います。これはぜひ行政にお願いしたい。現在、川崎のある工場は、ほとんどの紙を資源化することが可能とのこと。例えばアルバムに付着している異物も一緒に出すことができ、工場内で分別してリサイクルしているようです。少々コストが高いのかもしれませんが。</p> <p>ですので、ぜひ3市でどんな業者を使用しているのか、また、なるべく資源化する種類の多い紙を引き取ってくれるところを選定するとか、これからも技術が進歩してきていますので、なるべく多くの紙をリサイクルしようという動きに工場もなっていくものだと思いますので、3市でなるべく多くの紙がリサイクルできるような業者を選定するということも必要かなと思います。</p>
<p>高松委員 (日)</p>	<p>私は本業が古紙問屋なので、説明をさせていただきたいと思います。</p> <p>ただ今の川崎の工場は、コアレックスという製紙工場が入っておりまして、そこは通常、再生できないと言われている難古紙等、例えばシールやプラがついているものは通常は普通の再生紙にはならないのですが、そういうものも再生してトイレトペーパーにするメーカーとなります。</p> <p>現在、日本にある製紙メーカーの大手企業である王子さん、レンゴーさん等、他にもありますが、大手企業が割とそういうものに対応しておらず、やはり機械がすごく高価であるため、少しずつ改良しているようですが、まだまだ最新の技術にはなっていないようです。私ども製紙業界の方も、製紙メーカーの方に、紙は何でも再生できるような状況にして欲しいという願いはこれまでも行っているのですが、なかなか進んでいない状況です。難古紙を受け入れてくれる体制がまだ製紙メーカーにないので、各市、集め方が違う状況が実際に出ているものと思います。</p> <p>減量グループの資料にあります、日野市の方でテスト実施しているのは、通常古紙として回収できない半紙とか写真等を、紙袋を配付して集めており、これを市内全域で行うようになると、実際は4割ぐらい可燃ごみの中に紙ごみが入っていると思いますので、それが何%でも減ればごみ減量につながると思います。例えば、何でも持っていきますと言う問屋さんでも、そこで手作業で選別しています。駄目なものを取って可燃で焼却処理している。ですので、集めるからいいかというところではないという現在の実情ですが、この先、10年ぐらい経過すれば、どの製紙メーカーもいずれは再生できるような状況になっていくと思います。</p> <p>あとは、そういうものが入ってしまうと、トイレトペーパーの色が変わることもありますので、消費者の方がどのように思うか。ここに来られている方は再生紙で全然問題ないという方が大半だと思いますが、実際にドラッグストア等で並んでいるものはバージンパルプのものが</p>

<p>續木委員（小）</p>	<p>多いかと思しますので。徐々に市民の皆さんの意識が変わり、多少茶色やグレー色のものが増えれば、それが日常として浸透していくのではないかと思います。</p> <p>私は市民会議に参加するようになってから高松委員からいろいろ教えていただき大変勉強になっているのですが、例えば、自分の名前とか住所が入った個人情報資源に出したくないと思う人もいると思うんですけど、資源に出すべきかどうかどう判断すればよいか迷います。</p>
<p>高松委員（日）</p>	<p>私共では難古紙と一緒にシュレッターも回収しているのですが、シュレッターは5ミリ以上であれば繊維が取れますので再生できます。ただ、圧着紙が通常の紙類と一緒に入ってしまうと資源化に支障をきたすこととなります。また、特に集合住宅では資源物が荒らされてしまうケースがよくあるので、防犯上の観点も踏まえて個人の判断で出させていただくのがよいかと思います。</p>
<p>宮脇委員長</p>	<p>私はやはり個人情報の漏洩等の問題がありますので、例えば、封書の宛名の部分は紙ですけど、封書を切って宛名の部分は可燃で排出しております。このようにすれば分別すれば大分減らすことが可能だと思います</p> <p>また、回収後の工程で飛散するリスクもありますので慎重になってまいります。</p> <p>時間も大分経過しておりますので、本日の報告についてはここで終了させていただきます。後日でも結構ですので、ご意見、また、減量アイデア等ありましたらぜひ事務局にお寄せいただければと思います。</p> <p>次第2、その他になります。事務局から報告をお願いいたします。</p>
<p>事務局</p>	<p>令和4年度につきましては、全体会議3回、また、各小委員会につきましては、情報グループ3回、減量グループ4回それぞれ実施いたしました。まずは、委員の皆様につきまして、ご参加いただき誠にありがとうございました。皆様のおかげで、各グループとも次年度の実施に向けて実りある議論ができたものと考えております。本会議の任期につきましては令和6年3月31日までとなっております、令和5年度も引き続きよろしくお願い申し上げます。</p> <p>1点事務連絡ですが、減量グループにつきまして、3月23日（木）午後3時、場所は浅川清流環境組合におきまして、コープ側との打合せを予定しております。なお、今回の打合せについては、第5回減量グループと位置づけさせていただきます。当日のご都合が悪い方は、事前に事務局までお申し出いただければと思います。また、午後2時からコープ側のご希望により、浅川清流環境組合の施設見学を予定しております。委員の皆様で施設見学もご希望の方は事務局までお申し出いただければと思います。</p>

<p>宮脇委員長</p>	<p>ただ今の事務局からの報告につきまして、ご質問等ありますでしょうか。よろしいでしょうか。</p> <p>最後に、委員の皆様方からその他として何か意見やご報告等ありますでしょうか。よろしいですか。</p> <p>それでは、本日の議題はこれで終了とさせていただきたいと思えます。どうもありがとうございました。</p> <p>それでは、事務局に進行をお返ししたいと思います。</p>
<p>事務局</p>	<p>次回の全体会議の日程につきましては、例年、第1回目は7月か8月を予定しております。今後の日程、会場が決定次第、皆様にご連絡させていただきたいと思えます。小委員会につきましては、それよりも前に行う可能性がありますので、各グループごとに日程調整させていただき、皆様にご連絡する予定でありますので、よろしくお願いたします。</p> <p>それでは、これをもちまして、令和4年度第3回3市ごみ減量推進市民会議を閉会いたします。</p> <p>本日はどうもありがとうございました。</p>